

能代市総合計画 まちづくり点検表

平成21年10月作成

1 政策のめざす姿や状態

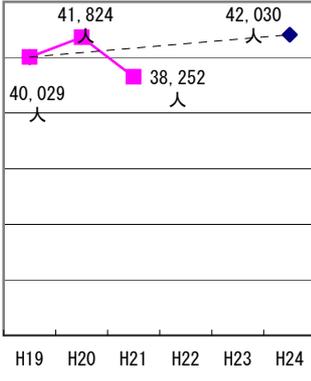
基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(6)	地域で活躍する元気な高齢者
めざす姿や状態	①	高齢になっても住み慣れた家庭や地域で、健康でいきいきと自立した生活ができること。
—評価の目安— (^-) 順調 (-) 横ばい (>_) 不調	②	高齢者が培った知識と経験を生かして、社会的な役割を持ち、生きがいや地域の活力につながること。
	③	地域住民やボランティアなどとの交流やその支援が、高齢者の自立を支えること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^-) 順調	18	高齢者人口に対する自立高齢者率	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>84.0% 84.0% 83.8% 82.0%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>第3期介護保険事業計画では、年々要援護者の出現率が上がることを想定していたが、介護予防等により、要援護者の出現率は横ばいとなっている。</p> <p>今後、人口のピークである団塊の世代が年齢を重ねると、要援護者の出現率も上がることが想定されるが、このまま介護予防の推進により伸びを抑制できれば、目標達成できると考えられ、順調に推移しているといえる。</p>	<p>要援護者の出現率は、年齢を重ねるごとに上がっていく傾向があり、今後、人口のピークである団塊の世代が年齢を重ねると、要援護者の出現率が大幅に上がることが予想されるため、目標達成に向けてさらに効果が高い施策を研究し、展開していく。</p>	<p>・介護予防の効果について、先進事例を参考に本市の実例なども検証しながら、予防効果が高い施策を展開。</p>

(^-) 順調	19	自治会・町内会やボランティア活動など市民活動に参加することを心がけている市民（高齢者）の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>48.1% 51.0% 52.2% 60.0%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>豪雨災害、秋田わか杉国体等を経験し、住民のボランティア意識が高まってきており、こうした意識を育てて輪を広げていくことができれば、目標達成ができると考えられる。</p>	<p>今後も引き続き、市民の参加意識の高揚を図るとともに、新たに参加意識を持つ人を増やしていく必要がある。</p> <p>そのため、参加者の輪を広げるための活動や、参加者への特典といった自発的に参加したくなる仕組みなど、より参加しやすい環境を整えることも検討していく。</p>	<p>・ボランティアなどの市民活動の啓発。</p> <p>・ボランティア活動のポイント制など、多くの高齢者が楽しみながら参加できる仕組みの検討。</p>

(-) 横ばい	20	シルバー人材センターの登録会員数	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>391人 396人 388人 411人</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>高齢・病気等の理由により、平成21年3月にまとまった脱退があつて減少したが、加入PRの効果などで4月以降は新たな加入者が増え、順調に推移している。</p> <p>平成21年9月末現在：405人</p>	<p>高齢者人口が増加しているため、今後も加入者が増えることが予想される。</p> <p>それに合わせた受託事業の増加を図り、団体の自立を促す。</p>	<p>(順調に推移しているので取組を維持。)</p>

(>_<) 不調	21	シルバー人材センターの就業延人員												
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策										
 <table border="1" data-bbox="159 190 470 571"><caption>指標の推移 (就業延人員)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>就業延人員 (人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H19</td><td>40,029</td></tr><tr><td>H20</td><td>41,824</td></tr><tr><td>H21</td><td>38,252</td></tr><tr><td>H22</td><td>42,030</td></tr></tbody></table>		年度	就業延人員 (人)	H19	40,029	H20	41,824	H21	38,252	H22	42,030	<p>急激な社会経済情勢の変化の影響で受注件数・契約金額とも前年度を大きく下回る結果となり、就業延人員も減少した。</p>	<p>受託事業の増加を図り、団体の自立を促す。</p>	<p>・市としてもあらゆる機会にシルバー人材センター事業の周知と会員募集に協力。</p>
年度	就業延人員 (人)													
H19	40,029													
H20	41,824													
H21	38,252													
H22	42,030													

能代市総合計画 まちづくり点検表

平成21年10月作成

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(7)	地域で社会で自立する障害者
めざす姿や状態	①	障害があっても住み慣れた家庭や地域で、生きがいを持って自立した生活ができること。
-評価の目安- (^-) 順調 (-_) 横ばい (>_) 不調	②	障害者が個性や能力を生かして社会参加できること。
	③	地域住民やボランティアなどとの交流やその支援が、障害者の自立を支えること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^-) 順調	22	障害者計画に基づき入所施設から地域生活へ移行する人数											
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策										
<table border="1"> <caption>障害者計画に基づき入所施設から地域生活へ移行する人数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	人数	H19	0人	H20	1人	H21	4人	H24	13人	<p>障害者自立支援法の施行に伴い、退所後の福祉サービス体制が整ってきたことで、各施設において地域移行が可能と判断された場合は、在宅サービスを利用した地域生活への移行に積極的に取り組んでいることにより、移行者の増加につながったと考えられる。</p>	<p>知的障害者や精神障害者が地域において、生活の援助を受けながら共同生活を行うグループホーム、ケアホーム、福祉ホームについて、社会福祉法人、医療法人等による設置を促進していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者が共同生活するグループホーム等の事業者への支援。 ・居宅介護・相談支援体制の強化。
年度	人数												
H19	0人												
H20	1人												
H21	4人												
H24	13人												

(-_) 横ばい	23	事業所における障害者雇用率											
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策										
<table border="1"> <caption>事業所における障害者雇用率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>雇用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>2.31%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>2.45%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>2.37%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>2.60%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	雇用率	H19	2.31%	H20	2.45%	H21	2.37%	H24	2.60%	<p>障害者雇用については、法に基づいた雇用率の達成のため、職業安定所が活動に力を入れていることや、雇用側の理解が深まってきていることにより、平成19年度（グラフではH20）においては雇用率が伸びていたが、平成20年度においては、経済状況の悪化により、雇用率が減少したと考えられる。</p> <p>平成21年度においても経済状況が改善されていない状況では、雇用率の伸びは期待できないと考えられる。</p>	<p>障害者の一般就労の拡大のため、行政・施設・事業者・関係団体による情報の共有化を図り、求職者、求人者の要望に対応していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関・関係団体で構成するネットワークの構築。
年度	雇用率												
H19	2.31%												
H20	2.45%												
H21	2.37%												
H24	2.60%												

(-_) 横ばい	24	障害を持つ人も社会参加できる環境が整っていると思う市民の割合											
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策										
<table border="1"> <caption>障害を持つ人も社会参加できる環境が整っていると思う市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>12.9%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>17.6%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>13.9%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>20.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	H19	12.9%	H20	17.6%	H21	13.9%	H24	20.0%	<p>ひまわり号やであいのコンサート、障害者スポーツレクリエーションや障害者ふれあい作品展などの継続した取組により、障害者への理解などが深まってきていると考えられるが、平成19年開催の全国障害者スポーツ大会わか杉大会のような市民を巻き込んだ行事がなかったことが、市民意識の減少につながったと考えられる。</p>	<p>障害者への理解を広めていくため、更なる交流の場が必要であるが、障害者の参加が物理的に難しい行事等もあり、社会参加の機会が限られることがある。</p> <p>そのため、障害者が障害を気にすることなく、健常者と同じように参加し、活動できる環境を整えていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等のバリアフリー化の促進。 ・行事開催時の障害者への補助ボランティア。 ・障害者の社会参加が当たり前になるよう広報等により啓発。
年度	割合												
H19	12.9%												
H20	17.6%												
H21	13.9%												
H24	20.0%												

(^_^) 順調	25	手話サークル登録者数 (ボランティアセンター)															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>手話サークル登録者数 (ボランティアセンター)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>登録者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>63人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>72人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>70人</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>70人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>70人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	登録者数	H19	63人	H20	72人	H21	71人	H22	70人	H23	70人	H24	70人	<p>手話技術の習得講座を終了した人が、その技術の向上等のために、引き続き手話サークルに加入していることで、登録者数の増加につながったと考えられる。</p>	<p>手話技術習得講座の継続実施のほか、手話サークルの存在や、個々の事情に応じてボランティアができることなどについて、市民に周知していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターにボランティア登録する際、手話ボランティアについても説明。 ・広報紙等により手話サークルに関して周知。
年度	登録者数																
H19	63人																
H20	72人																
H21	71人																
H22	70人																
H23	70人																
H24	70人																

(^_^) 順調	(2)	ボランティアセンター登録者数															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>ボランティアセンター登録者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>登録者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>5,148人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>5,243人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>5,641人</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>5,641人</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>5,641人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>6,000人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	登録者数	H19	5,148人	H20	5,243人	H21	5,641人	H22	5,641人	H23	5,641人	H24	6,000人	<p>福祉分野のボランティアをはじめ、除雪ボランティアや学校支援ボランティアなど、さまざまなボランティア活動の広まりを受け、順調に推移している。</p> <p>高齢化、核家族化などの進行により、家庭機能が低下し、近隣社会で助け合いの人間関係が希薄に成りつつある中、人と人との絆を生み出すボランティア活動への関心の高まりが、登録者数の増加につながってきているのではないかと考えられる。</p>	<p>ボランティアが活動しやすい環境づくりや、情報や目標を共有して交流・連携できる仕組みづくりを進める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録者が活動しやすい環境づくりや、交流・連携のための仕組みの検討。 ・ボランティア同士の情報交換の場の確保や、ホームページ・メールマガジンでの情報発信の検討。
年度	登録者数																
H19	5,148人																
H20	5,243人																
H21	5,641人																
H22	5,641人																
H23	5,641人																
H24	6,000人																

(-_-) 横ばい	26	公共施設等のバリアフリー化の6項目クリア率															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>公共施設等のバリアフリー化の6項目クリア率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>クリア率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>5.4%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>5.5%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>5.5%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>5.5%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>8.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	クリア率	H19	5.4%	H20	5.6%	H21	5.5%	H22	5.5%	H23	5.5%	H24	8.0%	<p>クリア率が伸びない要因としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに建設される公共施設が少なくなっていること。 ・既存の施設は、行財政改革の面から、今後の運営方針の検討がなされていること。 ・既存の施設は、バリアフリー化を行うスペースが少なく、改修工事に多額な経費がかかるケースが多いこと。 <p>などが考えられる。</p>	<p>公共施設は、不特定多数の市民が利用するものであり、誰もが利用できることが求められるが、財政面の考慮も必要であるため、可能な施設からバリアフリー化に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者等の立場に立った施設管理の周知。 ・6項目一斉でなくても、年次計画等により、できるところから改善。
年度	クリア率																
H19	5.4%																
H20	5.6%																
H21	5.5%																
H22	5.5%																
H23	5.5%																
H24	8.0%																

能代市総合計画 まちづくり点検表

平成21年10月作成

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(8)	ふるさとの誇りを受け継ぐ文化・芸術
めざす姿や状態	①	民俗芸能や民俗行事などを通じて、世代間交流が進み、地域住民の結びつきが深まること。
—評価の目安— (^~^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	文化・芸術の活発な活動により、人の心が豊かになること。
	③	地域の歴史や文化への理解が深まり、地域に愛着や誇りを持つこと。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(-_-) 横ばい	27	地区の祭りや七夕・民俗芸能などへ参加を心にかけている市民の割合		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>33.7% 33.5% 33.8% 42.0%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>地区の祭りなどへ参加を心にかけている市民の割合は横ばいとなっている。</p> <p>これは、社会構造の変遷などにより、地区におけるコミュニティのあり様も変わり、行事等もまた様変わりしていくものであるが、本市では各地区において、従来からのコミュニティが維持されているからではないかと考えられる。</p>	<p>地区行事等への多数の参加は、地域コミュニティの高まりをもたらすものである。</p> <p>多くの地区では、世帯数減等のマイナス要因もあり、地区の行事や自治会・町内会活動等への参加を促していく必要がある。</p> <p>また、地域や地区そのものへの関心を高めるような取組も必要となっている。</p>	<p>・民俗芸能、民俗行事の掘り起こし。</p>

(^~^) 順調	(4)	自主学習グループ数（公民館登録）		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>257団体 276団体 285団体</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>自主学習グループは順調に増えている。</p> <p>これは、中央公民館や地区公民館で開設している「市民学校」などにおいて、地域の課題を取り上げた学習活動の取組等が、講座終了後の自主学習グループの結成につながったものと考えられる。</p>	<p>自主学習グループが増えることで、さまざまな活動の活発化につながり、地域づくりに活かされていくことになる。</p> <p>今後は、グループ同士の連携を深め、より大きな効果を生み出せるような仕組みづくりが課題となる。</p>	<p>・グループ同士の連携が深まる仕組みの検討。</p>

(^~^) 順調	(5)	自主学習グループ会員数（公民館登録）		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>4,249人 4,529人 4,500人</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>自主学習グループ会員数が目標値を上回った。</p> <p>これは、自主学習グループ数の増加と同様の要因であると考えられる。</p>	<p>今後は、若い人の学習グループへの加入や新グループの結成等をいかに促していくかが課題となる。</p>	<p>・若い人のニーズに即した講座開設等の検討。</p>

(->) 横ばい	28	能代市民俗芸能連合会加盟団体数											
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策										
<table border="1"> <caption>能代市民俗芸能連合会加盟団体数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>団体数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>19団体</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>19団体</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>19団体</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>20団体</td> </tr> </tbody> </table>	年度	団体数	H19	19団体	H20	19団体	H21	19団体	H24	20団体	<p>民俗芸能は各地域において幾世代にもわたって受け継がれてきたもので、その承継活動は社会構造の変遷などに大きく影響を受けてしまうものである。</p> <p>加盟団体数は横ばいであるが、全国的に厳しい状況の中で団体数を維持していることは、市民俗芸能連合会への支援策が一定の効果をもたらしているものと考えられる。</p>	<p>各地域における民俗芸能の承継活動は、地域づくりにもつながる活動である。</p> <p>今後は、各団体での後継者育成活動等に対する支援策の充実に努めるとともに、現在未加盟の民俗芸能（民俗行事）団体の連合会への加盟を働きかける必要がある。</p>	<p>・後継者育成や公演機会の確保に対する支援策を維持。</p>
年度	団体数												
H19	19団体												
H20	19団体												
H21	19団体												
H24	20団体												

(->) 不調	29	文化財保護協会の会員数											
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策										
<table border="1"> <caption>文化財保護協会の会員数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>会員数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>121人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>105人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>101人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>150人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	会員数	H19	121人	H20	105人	H21	101人	H24	150人	<p>会員数が減少傾向にあるが、これは、県文化財保護協会能代支部・二ツ井町文化財保護協会とも活動そのものは活発であるものの、会員の高齢化が進んでいることや若年層の入会が減少していることなどが影響していると考えられる。</p>	<p>郷土の歴史や文化財に興味・関心を持つことは、個々人の郷土愛につながり、ひいては地域づくりにもつながっていく。</p> <p>今後は、市民が歴史や文化財に興味・関心を持てるような協会主催講座、協会会員の自己研修などが重要になってくるため、協会活動への支援が必要である。</p>	<p>・協会主催の会員研修等への支援を継続。</p>
年度	会員数												
H19	121人												
H20	105人												
H21	101人												
H24	150人												

(^~) 順調	30	檜山歴史ガイドの会会員数											
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策										
<table border="1"> <caption>檜山歴史ガイドの会会員数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>会員数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>41人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>48人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>50人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	会員数	H19	42人	H20	41人	H21	48人	H24	50人	<p>歴史ガイドの会は、市主催の「ガイド養成講座」の修了者により組織されており、平成20年度に講座を開催したことにより、会員が増加した。</p>	<p>今後もガイドの会の会員を増やすため、定期的に養成講座を実施していく。</p> <p>また、ガイドの質を確保し、市民のガイドへの興味・関心を高めるためにも、ガイドの会主催の研修会等への協力・支援が必要である。</p>	<p>・ガイドの会の推薦による認定の検討。</p>
年度	会員数												
H19	42人												
H20	41人												
H21	48人												
H24	50人												

能代市総合計画 まちづくり点検表

平成21年10月作成

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(9)	だれもが気軽に楽しめるスポーツ
めざす姿や状態	①	スポーツを気軽に楽しめ、健康づくりや体力づくり、仲間づくりができること。
—評価の目安— (^-^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	スポーツに取り組める環境があり、競技力が向上すること。
	③	スポーツイベントなどを通じて、バスケの街として誇りが高まること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^-^) 順調	31	スポーツに親しんでいる市民（週一回以上）の割合		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>43.7% 52.1% 46.0% 50.0%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>スポーツに親しむ市民の割合が、年度によって変動はあるものの、基準値からは増加している。</p> <p>その要因としては、昨今の健康ブームの影響が考えられるほか、市の取組では、比較的容易にできるニュースポーツの普及事業の継続的な開催や、スポーツ教室等での新規参加者の募集、教室終了後のサークル化やリピーター化のためのスポーツ機会の提供・指導などが考えられる。</p>	<p>スポーツ教室等に参加する側の立場に立った企画や事業展開が課題となっている。</p> <p>また、さまざまなスポーツに携わるリピーターの確保、要望や使用目的を考慮した施設開放が課題となっている。</p>	<p>・より気軽にスポーツを楽しめるよう配慮し、取組を継続。</p>

(^-^) 順調	32	優良競技者・団体表彰数（栄光賞）		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>134人 149人 170人</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>栄光賞の表彰数が目標値に近づいている。</p> <p>その要因としては、各競技団体が主体的にジュニアの育成及び競技力向上を図るための教室・講習会等を開催していることや、小学校体育連盟の解散以降、競技力向上に対する学社連携が進められていることなどが考えられる。</p>	<p>競技力の向上と競技者の底辺拡大を図る方策が課題となっている。</p> <p>また、競技者としての意識の高揚を促す機会の提供が課題となっている。</p>	<p>・各競技団体が主体の競技力に応じた教室開催や事業展開。</p> <p>・スポーツ少年団活動によるジュニア競技者の育成。</p> <p>・競技者として興味や期待の持てる全国大会レベルの競技会の誘致。</p>

(^-^) 順調	33	スポーツ少年団認定指導者数		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>364人 434人 471人 450人</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>認定指導者数が目標値を上回った。</p> <p>その要因としては、小学校体育連盟の解散で、ジュニアのスポーツ活動が社会体育化したことにより、指導者の充実・底上げが図られたことなどが考えられる。</p>	<p>今後、指導者として、スポーツ少年団活動の趣旨を十分理解してもらうことが課題である。</p> <p>また、スポーツ少年団本部の意向・指導を理解した上で、過度の期待や勝負へのこだわりにより、子ども達の負担にならないよう親の理解を得ていくことが課題である。</p>	<p>・認定研修への参加をさらに促し、取組を継続。</p> <p>・教育研修機会の提供を継続。</p>

(>_<) 不調	34	バスケの街を他に誇れると思う市民の割合																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1" data-bbox="159 224 475 560"> <caption>バスケの街を他に誇れると思う市民の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>73.6%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>69.9%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>61.0%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>75.0%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>75.0%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>75.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	割合	H19	73.6%	H20	69.9%	H21	61.0%	H22	75.0%	H23	75.0%	H24	75.0%	<p>バスケの街を誇れる市民の割合が減少した。</p> <p>その要因の一つとしては、平成19年度に本市で少年男子フルエントリーの参加で開催された秋田わか杉国体が終了し、市民の関心が落ち着いたためと考えられる。</p> <p>「バスケの街」としてのイメージは、能代工業高校バスケ部の存在が大きい現状があり、市民レベルの啓発や取組が必要になっているものと考えられる。</p>	<p>バスケに関するさまざまな情報発信をはじめ、「バスケの街づくり」の市民意識の高揚をどのように図っていくかが課題となっている。</p> <p>また、定着してきた「バスケの街」のイメージをどのように活かしていくかが課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケの要素を取り入れたニュースポーツや健康づくりの取組。 ・能代カップをはじめ、大会・イベント・教室等を情報発信し、「バスケの街」をアピール。 ・バスケを基調としたイラストのペイントやイメージキャラクターの検討。 ・スポ少のミニバス育成等による競技人口の拡大。 ・バスケの普及、競技力の向上を側面から支える指導者の育成。
年度	割合																	
H19	73.6%																	
H20	69.9%																	
H21	61.0%																	
H22	75.0%																	
H23	75.0%																	
H24	75.0%																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

平成21年10月作成

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(10)	認め合い支え合う社会づくり
めざす姿や状態	①	性別や国籍などにかかわらず、一人ひとりの個性や能力を発揮できること。
—評価の目安— (^_^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	人権意識や平和意識が浸透すること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(>_<) 不調	35	一人ひとりの個性や能力を発揮できる地域になっていると思う市民の割合												
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策										
<table border="1"> <caption>一人ひとりの個性や能力を発揮できる地域になっていると思う市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>8.5%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>10.4%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>7.7%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>20.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	割合	H19	8.5%	H20	10.4%	H21	7.7%	H24	20.0%	<p>個性や能力を発揮できる地域になっていると思う市民の割合が、年度によって変動している。</p> <p>男女共同参画推進事業や日本語学習ふれあい交流支援事業、人権擁護活動促進事業などを行っているが、まだ、十分浸透しきれていないと考えられる。</p>	<p>今後も引き続き、さまざまな取組を進めていく必要がある。</p>	<p>・広報紙等を活用した事業のPR、事業への参加の呼びかけを継続。</p>
年度	割合													
H19	8.5%													
H20	10.4%													
H21	7.7%													
H24	20.0%													